

CASBEE[®] - 建築(新築) | 評価結果 |

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BO_NC_2016(v4.02)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	京都府長岡京市六ノ坪物流PJ	階数	地上5F
建設地	京都府長岡京市六ノ坪25、27、27-1	構造	S造
用途地域	工業地域、防火地域指定なし	平均居住人員	15人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2025年7月 予定	評価の実施日	2023年11月1日
敷地面積	5,065 m ²	作成者	酒巻 純平
建築面積	2,616 m ²	確認日	2023年11月9日
延床面積	10,167 m ²	確認者	細川 淳子

外観パース等
図を貼り付けるときは
シートの保護膜を剥離してください

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 0.7 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.4

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.7

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.0

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 1.7

LR 環境負荷低減性

LR のスコア = 3.1

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.7

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.5

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 2.8

3 設計上の配慮事項		その他
総合 倉庫としての機能を果たすと共に、事務所や休憩スペースなどを設け利便性を考慮した計画とし、環境面においては感染症予防や省エネ性に考慮した設備計画とした。		0
Q1 室内環境 空を適所にとることによって、通風ならびに自然換気を考慮した。内装材の選定にあたっては、ホルムアルデヒド等による空気質汚染をおこさない材料を選定した。	Q2 サービス性能 部品・部材の耐用年数を考慮し、住戸内の間仕切り壁は木軸とすることで空間の可変性を高め、ソフト・ハードの両面より空間の快適性を実現した	Q3 室外環境(敷地内) 植栽によって沿道の緑の連続性を確保、またオープンスペースを確保することにより、都市空間の活動上のアメニティを向上した。
LR1 エネルギー 建物の外皮熱負荷抑制の為に、断熱材の仕様についてBPM1.00以下となるように考慮した。設備面において空調計画を省エネ性、経済性を考慮した空冷ヒートポンプパッケージ方式を採用した。創エネとして太陽光発電を、採用した。	LR2 資源・マテリアル 節水による水資源保護や省エネ性の観点から、自動水栓を採用とし機器の操作を簡単にして無駄な流出を少なく節水効果を図った。	LR3 敷地外環境 自転車置き場を確保する事により利用者の利便性を計り、自動車利用による交通負荷を抑制した。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される